

かけだしの頃

今だから話せる
ゲンバの失敗
5



入社2年目の頃
現場事務所での1枚

大豊建設株式会社 東京支店
土木部 東雲シールド作業所 所長

平形 和広

1983年（昭和58）年、大豊建設株式会社に入社。以来、大半を地下鉄・シールドトンネル等の工事で研鑽を積む。座右の銘は「前へ！」



会社に入って次の年のことです。ある水力発電所の新設工事で、鉄管路を支える「小支台」というのを造り直した経験がありますよ。

鉄管路と小支台というのはおわかりになりますか？ 山の斜面に太いパイプを通して、山の上に溜めた水を一気に落として発電する施設があるでしょう。その発電用の太いパイプのことを「鉄管路」、その鉄管路を支える基礎のことを「小支台」といいますが、要はその小支台で失敗したことがあります。

額末はこうです。小支台は山の中腹などの地山を切つて場所を確保し、そこに鉄筋と型枠を立ち上げてからコンクリートを打設して造りますが、その打設前の検査で合格を確認せずにコンクリートを打つてしまい、発注者から作業の中止命令を受ける事態に陥ってしまいました。

実はその失敗は、問題の小支台を造るときに、もう一つほかに同時に施工している台があって、コンクリートも一緒に打つてしまおうとしたことに端を発しています。つまり、二か所同時にコンクリート打設前検査を受けなければなりません。そのとき一か所は「問題なし」として合格し、残り一つは型枠の内側の清掃が不十分であるとして「打設前にしっかり清掃してください」と指示を受けていた。そこで私は「ちゃんと清掃さえしておけば問題ないだろう」と考えて、「合格」

の一言を聞かぬままに安易に作業を進めてしまい、事実上のやり直しを命じられてしまった、というわけです。

発注者の検査官にしてみれば、しっかり清掃しろと言ったのは「後でもう一回見せてくれ」という意味であつて、決して合格させたつもりはない。ところが、こちらは「清掃さえしておけば問題ないだろう」と考えて、先方の本意の意図さえ探らうとしなかった。「そこに大きな隔たりはなかったか」と指摘されても、反論できないほどのミスといえます。

結局、検査に合格していないものは受け取れない」として、とうとうその打設は認めてもらえませんでした。認めてもらえないということはその前の状態に戻せということ。壊して最初から造り直すのと同じですから、すいぶんと周りに迷惑をかけてしまったことを覚えています。

「確認」とは、確かめはつきり認めることですが、自分勝手の確認であつては決していけない。現場では部下に「しっかり確認しろ！」とよく言いますが、確認という行為は相手があるものである以上、「相手の立場になつて物事を考えることが大切である」ということが、この失敗から得られた教訓かもしれません。

その後、協力会社の作業員さんから、作業進めていいなんて言つてるけど、また壊すことになるんじゃないの、なんて、よくからかわれたものです（苦笑）。若い頃のとて苦しい思い出です。

